

図書館だより

文化学園図書館

文化学園大学・文化ファッション大学院大学
文化服装学院・文化外国語専門学校

No.158

2014年6月20日発行
東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL.03-3299-2395
FAX.03-3299-2604

司書の専門性について

大学事務局長 遠藤 啓

文部科学省に在職時、最初に課長職を務めた課が公共図書館の担当だった。そのためか、図書館に勤める司書の仕事の多様性と専門性に、驚かされることが少なくない。

公共図書館というはおもに公立の図書館のことだが、数の上で大部分を占める市町村の図書館では児童図書がバカにはできない比重を占めている。「児童図書コーナー」として区分された空間を持つ図書館が多いが、ここではまた文字の読めない幼児を対象とした「読み聞かせ」が大事な活動の一つである。

文化学園大学には付属の幼稚園があり、入園式、卒園式には交代で誰かが出席する。普段、大学生や教職員を相手にしている人間には、幼稚園児にも理解できる言葉で挨拶をするのは、なかなか骨が折れる。大沼理事長は一度で懲りられたというし、私は断り続けているが、市町村立の図書館司書は、成人のモンスター利用者の相手をした直後に、幼児の相手も平然とこなせなければ務まらない。

大学図書館の中でも、医学部の図書館は、用語の特殊性で知られる。医学部の教員は、本人は図書館に来ずに、必要な論文をメモ等で注文して来る人が多いらしい。その注文が「NEJM, Vol.X, No.Y, pp…」という形でくる。NEJMというのは、“The New Eng-

land Journal of Medicine”という臨床系の学術雑誌で、そのX巻Y号の…ページの論文が欲しいということがわからない司書は、医学図書館では使い物にならない。

芸術の分野では、東京藝術大学の附属図書館に、ものすごい司書がおられた。上野にある国立文化財機構に勤めていた際、声楽を学ぶ娘の要請で、あるさほど著名ではない作曲家の歌曲の訳詩を求めて、この図書館に行ったことがある。ちなみに、藝大図書館は、成人ならその場で登録して館内での閲覧が可能である。

オペラと異なり、歌曲は楽譜も解説書も刊行物が少なく、探すのはなかなか難物である。作曲家が著名でなければ、なおさらである。案の定、この歌曲の題名では、楽譜・著書検索では、何もヒットしなかった。念のため、窓口の司書の人に聞いたら、奥から別の司書さんを連れてきた。この人に事情を話すと、少し考えた後、書架から一枚のCDを持ってきてくれた。このCDにくだんの歌曲が含まれており、しかも、ケース内の解説に、その歌曲の訳詩が記載されていたのである。

いかなる道も、極めるとなると厳しいものがある。司書の道も、例外ではなさそうである。

池田晶子著『14歳の君へ—どう考えどう生きるか』

文化学園大学教授(ファッションデザイン画担当) 高村 是州

私の思い出の一冊は、『14歳の君へ』(池田晶子著)です。この本は、40代になってこれからの人生について考えてみたいな、と思っていた頃に出会った一冊でした。そこに書かれていたのは、自我に目覚めた暗中模索の14歳に向けた、人生についての問いかけ、語りかけでした。

本書は4章に分かれていて、各章にはさらに4つのテーマが書いてありました。「個性」「友愛」「幸福」「人生」といった、誰もが一度は口にする単語についてわかりやすく書かれていながら、とても本質的な部分に迫る内容でした。

私は教育学とファッションデザイン学について学び、それを生業とし、学生にそのおもしろさを伝えることができる環境にあります。

ファッションはその時代の流行を追いかけたものなので、一過性で脈絡なく感じる学生もいるかもしれませんが、よく見てみるととても社会と密接に関わっています。

デザインというのは、「新しい形の追求」のみならず、人がよりよく生きていこうとする姿勢から生み出された「人智」そのものだと感じはじめた今、ファッションは私にとって、生きていくことそのものになりました。

もの作りを通じて感じたそんなことを学生にどのように伝えていこうか、と考えていた私にとって本書はとても大事なことを教えてくれました。社会に参加し、社会の中でいろいろな人と出会い、互いを尊重しながら生きていくこと、といった社会に参加する意識を、中学生向けの言葉が並ぶ本書を通じて、見直すことができたのです。

「ものを生み出すこと」というのは、その人の世

界観が反映されることなので、「形の完成度」は、その形が社会をどのように「よりよく」していくのか、という考え方の上に成り立っているのでは、と思いはじめていたときで、池田先生のお話はスーッと心の中に染みわたりました。中学生の頃までに学んだシンプルなことが、実はとても大切なことなんだ、とあらためて実感しました。

私のお気に入りの言葉をご紹介します。個性について語られたところです。

「個性というのは、他人がそれを認めるもの、あれがあの人個性だというものであって、自ら求めるものではないんだ。君が誰かを個性的な人と感じる時、その人は、どことなく人と違う、独特の雰囲気を持っているね。それはその人が、自分で自分をどうこうしようという意図を持っていないからだ。自分が持って生まれたその個性に従って、自ずからそうなる自分であるからだ。そういう本当に個性的な人間に、君はなりたいたくはないか。『自分らしく』を求めることが、自分を自分らしくなくしている」

これから社会に出る学生の皆さんに、あらためて自分の価値観を見直すきっかけとして、ぜひオススメしたい一冊です。

私自身も、一人でも多くの方にファッションの楽しさや面白さ、生きることのすばらしさを伝えていけるよう、研究を深めていきたいな、と思います。

*池田晶子著『14歳の君へ—どう考えどう生きるか』
毎日新聞社 2006 (104/1)

故實叢書『冠帽圖會』・『禮服着用圖』

文化学園大学准教授(史学・博物館学担当) 田中 直人

『故實叢書』は我が国に伝わる儀式書、故実書の類を網羅的に集めたものであり、有職故実研究の基本書である。「有職故実」とは近世に成立した言葉で「公家及び武家の儀式行事を進める上での法式」を指す。「有職(識)」は古くは歴史や文学、法規、礼儀に通じた博識な人を指して使われたが、後に意味が限定されて朝廷の儀礼に通暁した者を示すようになり、やがて儀礼法式そのものをいうようになった。また「故実」も、元は古の事実、つまり古例全般のことであったものが、後に有職と同じく行事作法それ自体をいうようになった。本書に収載される対象は以下のようなものである。①朝廷内の組織(官職、位階)、②建築物(宮殿、殿舎)、③調度品(生活道具)、④服飾品(儀礼服、武装)、⑤饗饌物(儀式時の飲食物)、⑥交通用具(車輿)、⑦年中行事(歳事)、⑧典礼(生誕から死亡までの儀式)、⑨娯楽技芸(室内外の遊び)、⑩書札礼節(儀式に関する古文書)。諸物を詳細に検討し、儀礼の有りようを正しく再現する試みが、平安の昔から長きにわたり行われてきたのである。

『故實叢書』は、初めて編纂がなされた明治32(1899)年以降、3度にもわたる増補及び改訂の機会を得ており、その度に大幅な拡充が図られた歴史を持つ。『冠帽圖會』『禮服着用圖』の2冊を含む初版本は明治後期に完成したが、これは古典学者で『古事類苑』編集にも携わった今泉定介さだすけが編者を務めた。内容は江戸時代の公武双方の故実研究が主であったが、後に続く増補版の充実ぶりを見れば、その収載対象は限定的なものであったと評価されよう。その初版発行から30年を経た昭和3(1928)年、「大正の大震災は不幸にも本書をして絶版の厄難

に遭遇せしめ、斯學研究者をして容易に得難からしむる」との痛恨事を受け、「舊版を訂正し、更に有用希観の書を増補」する(同書巻頭言「増補故實叢書刊行に就て」)として『増補故實叢書』が刊行されることとなる。同版は国学、歴史学研究の第一人者であった関根正直まさなお、和田英松、田邊勝哉を新たに監修者として迎え、平安以降の朝廷儀式の様子を記した「内裏儀式」「儀式」「北山抄」「西宮記」「江家次第」などを加えることとなった。平安貴族の記した膨大な古記録を収めた本書は、有職故実研究における欠くべからざる基礎資料としての評価を一層確固たるものとしたといえる。

昭和27(1952)年には『新訂増補故實叢書』が、河鱒實英かわぼたさねひで、鈴木敬三を中心に編まれ、明治図書より順次刊行されることとなる。河鱒の言によれば、旧版は江戸時代に出来た誤りの多い図版に拠った部分があり、同版において「全く誤れる部分を省き正確なる資料を加えて面目を一新」している(河鱒實英『有職故実』塙書房、1960年)という。近代以降の様々な研究成果を取り込んだ「装束図譜」「職文図譜しやくぶん」「舞楽図説」を加えた同版は、戦中期までの桎梏を離れた国史研究の飛躍的發展に大きく寄与した。1990年代には、更なる増補をなした『改訂増補故實叢書』が出版された。同版は風俗研究が進展しテーマが多岐にわたる中、本来の儀礼研究とは離れた、服飾、建築、調度などの、事物それ自体の研究にも利用された。また図版の鮮やかさや見やすさから、学究者のみならず古制に関心を持つ多くの人々にも広く認知され、本学図書館を含む多くの研究・教育機関の一般書棚に配架されている。

『故實叢書』については以上とし、ここからは当該

書2冊について触れておきたい。まず『冠帽圖會』である。本書では天皇の冕冠、女帝の寶冠に始まり、諸王諸臣の禮冠、武禮冠、烏帽子など、公家服飾の中に位置づく様々な冠帽が示される。とりわけ冒頭の冕冠(図1)は古代中国の皇帝が主要祭事に着けたもので、頭頂に平直な板を載せその縁から玉を連ねた旒を垂下させる。衣服令を見る限り礼服の規定があるのは皇太子以下だが、日本律令は天皇に直接関わる規定を載せないため、これを天皇礼服不在の根拠とすることは出来ない。むしろ『続日本紀』天平四年正月朔条「御大極殿受朝。天皇始服冕服(大極殿に御しまして朝を受けたまう。天皇はじめて冕服を服す)」を捉えて、天皇の冕冠礼服着用初の初例とする説が有力である。『冠帽圖會』に載せられた冕冠は、奈良時代を大きく下る時期に描かれたものであり、これをそのまま聖武帝着用の冠と見ることは避けねばならない。しかし、幕末まで用いられた天皇礼服は古制をよく残していたとの指摘があることから、両者の間に幾らかの共通要素を推測するのは許されよう。同冊に描かれる冕冠は、古代の最高礼装の麗な姿の一端を窺わせる貴重な資料といえるのである。

また『禮服着用圖』に描かれる諸々の礼服も、既上で述べたように、始まりを辿れば律令国家へと行きつく。衣服令は律令官人に対し三種の服(礼服・朝服・制服)の着用を定めたが、最上に位置づけられる礼服は大嘗祭や元日朝賀など重要儀式に着された。

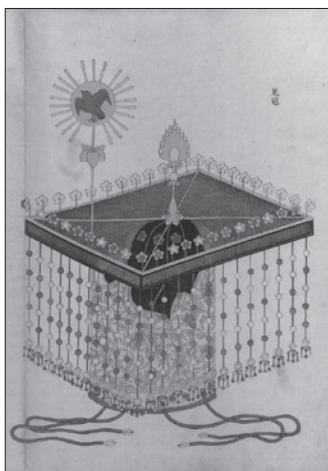


図1 『冠帽圖會』
「冕冠」



図2 『禮服着用圖』
「大將代」

衣服令諸臣条を見ると礼服には当該位色の衣の他に白袴、條帯、牙笏、褶、襪、烏皮烏が挙げられているが、図版中に描かれる官人の着装物にはこれら令の規定が示すところに通じるものが少なからず確認される。とくに同冊最初に載せる「典儀」の画面には注記が付され、その中には「玉佩」「短綬」の文言が見えるが、これは衣服令親王条「佩、綬玉珮」(綬、玉珮を珮びよ)に通じるものである。両資料の関連性を確認させるとともに、奈良時代の「綬」と「玉珮」の様子を知る手掛かりといえよう。

動きやすさを意識した武官礼服は、衣服令武官礼服条に定める「襦褌」が特徴的である。令の注釈書である『令義解』はこれを「一片当背、一片当胸、故曰襦褌也」としているが、この姿が「大將代」の図版に見えている(図2)。襦褌は、本来金属製の前掛けであったものが儀礼服とするにおよび布に置き換えられたと理解されているが、その様子が同図版からもはっきりと見てとることができる。

以上『故實叢書』の概要と、収載される『冠帽圖會』『禮服着用圖』2冊に関する基本事項の確認を、律令国家の礼服との関わりから記してきた。有職故実研究のほか、我が国の歴史的服飾、建築、生活用具の研究など、様々な視点から活用できる『故實叢書』を積極的に参照して頂ければと思う。

*河籬實英『有職故実』塙書房 1960 (210.09/K)

*江馬務『有職故実(日本の美と教養)』河原書房 1965 (210.09/E)

丸山健二『千日の瑠璃』で吟味された言葉

文化服装学院(デザイン画専任講師) 山本 典子

インターネットは興味のある世界に瞬時にアクセスできる便利さがある反面、バーチャルな世界さえも知り得た錯覚に陥ることも多いツールです。情報のネットサーフィンが、麻薬のように自分で思索する能力を弱めて、クリックするスピードが上がることと反比例して、人間として本来備わっている自然に対する畏れや、研ぎ澄ますべき五感が低下してしまうと思います。

現実をとらえる力や、命あるものに対する真摯な気持ちより、バーチャルな体温のない世界に安住を求めつつあると、人とのコミュニケーションをどうすればよいのか、戸惑いが逃避につながりかねない一方で、世界の誰とでもつながれる素敵な空間は魅力的でもあります。

身体に障害のある、世に見捨てられた少年「世一」と彼の分身のような一羽のオオルリが、彼らの日常を営んでいる「まほろ町」で生き抜いた時間を、1日1ページの640文字の形式で「私は無常だ。」「私は勇気だ。」「私は湖面だ。」「私はおーいだ。」「……と1000日分の時間を織り成す独特なスタイルの小説が、22年前に発表された丸山健二さんの記念碑的作品『千日の瑠璃』です。

弱い立場の代表のような少年「世一」と彼の飼うオオルリを介して、彼に冷ややかな町のほとんどの人たちや、彼の存在を受け入れる純粋な少女を通して、「生きるとは…」「人間の価値とは…」と生々しい人間の表裏を語りかけてきます。

少年「世一」の周りに出現するアクセントの色は青です。ラストの無限の広がりの中に、畏れと純粋さが交差するオリジナリティのある青の使い方の美

しさは、湧き出る印象を記憶にとどめてしまうパワーがあります。

「森羅万象のもと、すべての存在にはそれなりの意味がある…」という時代を超えた、普遍性が宿る小説です。今年、その『千日の瑠璃』を磨き直して究極版が刊行されたそうです。

私という1つの身体と思考を作品とつなげているのは、作者の吟味した言葉であり、作品の行間から立ち上がってくるイメージの泉にどっぷりと浸りながら味わう幸福感は、本という五感をフル活用する媒体のありがたさです。

宇宙とつながっている回路を切断せずに、リアルな体験を積み重ねてこそ、自分が成長していけると思います。

万物の営みには逆らわない心得が大切です。

ネーティブアメリカンのプエブロ族の古老の口承詩『今日は死ぬのにもってこいの日』という達観した世界観や、ガンジーの「明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい」という言葉は、人としての成長の本質をわしづかみにして輝いている言葉です。

自分の思考を鍛え、言葉を磨き、言葉を大切に扱えるのは人間にしかできない素晴らしい能力です。

今、世界は「暴力や戦争」の予感が充満していると思います。一部の言葉の軽い政治家や企業の経営者が、責任の持てない言葉を連発して、日本という国の在りようさえ危険に晒しており、言葉の怖さと難しさに改めて気付かされる昨今です。

*丸山健二著『千日の瑠璃 究極版』上・下 求龍堂 2014 (913.6/M/1,2)



図書館ホームページを活用しましょう

4月にホームページをリニューアルしました。

ページのデザインを見直し項目の内容を充実させました。また留学生に配慮し英語のページを設けました。新着情報やTwitter、Facebookで最新の情報を中心に発信していきます。ぜひご活用ください。

The screenshot shows the library homepage with the following callouts:

- ①: Navigation menu (トップページ, 利用案内, etc.)
- ②: Main banner image of the library interior
- ③: Search bar and OPAC search options
- ④: Links to various online journals and databases
- ⑤: News section (新着情報)
- ⑥: OPAC search interface
- ⑦: Student and graduate calendars (学生用 開館カレンダー)

- ① 貸出冊数や資料の利用方法など
- ② 図書館で契約している雑誌や新聞のデータベース
文化出版局の「BUNKA Fashion Magazine Digital Archive」、
アメリカ版ヴォーグ誌「The Vogue Archive」、「AFP World Academic Archive」など
- ③ 「図書館の使い方」「学内紀要」「図書館だより」「継続受入中の雑誌新聞」「マイクロ資料」など
- ④ 服飾・建築・インテリアなどの情報収集に役立つリンク集
- ⑤ 図書館からのお知らせ
- ⑥ タブを切り替えて、OPAC蔵書検索、国内論文検索(CiNii Articles)、サイト内検索ができる
- ⑦ 図書館に来なくても、ウェブから図書予約や貸出更新などができる便利なサービス

不明な点は下記にお問い合わせください

TEL : 03-3299-2395 (新都心キャンパス) / TEL : 042-327-8859 (小平キャンパス)

図書館のホームページ <http://lib.bunka.ac.jp>